

**品質保証研究会**  
**平成 24 年度活動報告**

**1. 活動状況**

(1) 平成 24 年度の活動は、第 22 回通常総会で承認された活動計画に基づき展開し、所期の成果を収めることができた。

番号	項 目	内 容		回数
1	通常総会	第 22 回通常総会の開催		1 回
2	品質保証研究会全体活動	会員相互間の啓発	講演会	1 回
			見学会	1 回
3	Q A S G ニュースの発行	会員の活動状況や、品質保証に関する情報交換	第 76 号～78 号	3 回
4	定例研究会活動	グループ毎にテーマを定めての品質保証に関する調査・研究活動と会員への成果提供	第 1 グループ	6 回
			第 2 グループ	6 回

(2) 平成平成 2 4 年度品質保証研究会の活動実績を表 1 に示す。

**2. 活動要約**

平成 2 4 年度の活動要約を表 2 に示す。

表1 品質保証研究会 平成24年度活動実績

○・▽：計画

●・▼：実績

項目		2012年(平成24年)							2013年(平成25年)					
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
全 体 活 動	総会	第22回 6/29 ▼												第23回 ▼ 6/4
	講演会	計画					○-----▽ (案内発送)	第40回 -----▽		○-----▽ (案内発送)	第41回 -----▽			
		実績						12/7 ▼		【第41回講演会は25年度に延期】				
	見学会	計画				○-----▽ (案内発送)	第38回 -----▽							
		実績					セコム 11/13 ▼							
	QA SG ニュー ース	計画	75号 ▼ (発行)	○----- (依頼)	○----- (締切)	76号 -----▽ (発行)	○----- (依頼)	○----- (締切)	77号 -----▽ (発行)		○----- (依頼)	○----- (締切)	78号 -----▽ (発行)	
		実績				9/14 ▼				2/14 ▼			5/31 ▼	
第1 グループ	計画		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)		▽ (定例研究会)	
	実績		7/12 ▼		9/12 ▼	10/31 ▼		12/6 ▼		2/7 ▼		4/11 ▼		
第2 グループ	計画			▽ (研究幹事会)			▽ (研究幹事会)			▽ (研究幹事会)			▽ (研究幹事会)	
	実績				9/26 ▼		11/9 ▼				3/6 ▼	4/18 ▼	5/11 ▼	5/29 ▼
H. Pメン テナンス	計画	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	→
	実績	→												
幹事会	計画			第145回 ▽		第146回 ▽		第147回 ▽		第148回 ▽	第149回 ▽	第150回 ▽	第151回 ▽	
	実績			8/24 ▼		10/12 ▼		12/7 ▼	1/25 ▼		3/22 ▼	4/16 ▼	5/14 ▼	

表2 平成24年度 品質保証研究会 活動要約

番号	項目		日時・場所等	参加人員	内容
1	第22回 通常総会		平成24年6月29日(金) 学士会館 2階202号室	78名 (出席45名、委任状33名)	(1)議案審議 ①平成23年度活動報告・会計報告の承認 ②平成24年度活動計画・予算案の承認 ③平成24・25年度役員の承認 (2)定例研究会活動状況報告、特別講演
2	講演会	特別講演	平成24年6月29日(金) 学士会館 2階202号室	136名	高い塔を建てなければ新たな水平線は見えない 川口淳一郎氏〔独立行政法人 宇宙航空研究開発機構〕
		第40回 講演会	平成24年12月7日(金) TKP東京駅ビジネスセンタ カンファレンスルーム12B	32名	世界初のガラスレス3Dテレビの誕生 平山雄三氏〔(株)東芝 研究開発センター マルチメディアラボラトリー 研究主幹〕
3	見学会	第38回 見学会	平成24年11月13日(火) セコム株式会社 I S 研究所	26名	【開催案内より】 セコム I S 研究所で開発する先端技術やそれら技術の信頼性確保の取り組み状況など
4	定例研究会	第1 グループ (リーダー： 武田博文 幹事)	<b>【研究テーマ】</b> 品質システムの研究「原子力QMSのあるべき姿に関する研究－セクタ規格の調査・研究－」 <b>【研究の内容】</b> 原子力 QMS のあるべき姿を追求するため、セクタ規格の調査、及び原子力 QMS として取り入れるべき要求事項の検討。 ・セクタ規格の調査として、ISO9001:2008 における QMS に対する要求事項（4 章～8 章）と、自動車「ISO/TS 16949」、医療「JIS Q 13485 :2005」、および航空宇宙「JIS Q 9100:2009」の各セクタ規格との比較検討を行い、各セクタ規格の特異な要求事項について抽出を行った。 ・原子力 QMS のあるべき姿に関する議論として、先に抽出された特異な要求事項に対し、原子力業界として実効的な要求事項となり、取り入れるべきかの観点から議論を行い、リスクマネジメント、QA部門の責任と権限、設計・開発の計画段階で行う部門横断的アプローチ等の要求事項を、取り入れるべき内容として抽出した。		<b>定例研究会</b> 平成24年7月12日 平成24年9月12日 平成24年10月31日 平成24年12月6日 平成25年2月7日 平成25年4月11日
		第2 グループ (リーダー： 三角竜二 幹事)	<b>【研究テーマ】</b> エラーマネジメントに関する調査研究 <b>【研究の内容】</b> (1)想定外対応を統合した安全思想の再構築 「想定外事象で人間や組織の対応をどこまで期待できるのか」をテーマに、安全を達成するために必要な個人及び組織の在り方を調査・検討した。 ・リスクリテラシー、高信頼性組織、レジリエンス能力で、東京電力福島原子力発電所の事故の注水経緯を事例に分析、評価した。 ・また、ソフトバリア（ハードバリアを期待される状態に維持管理し、さらに万が一ハードな防護壁が機能しなかった場合に災害を防止するために必要な人間の活動とこれを保証する手順書、規定、法令、組織、社会制度など）について、今後も検討していくこととした。 (2) QMS とレジリエンス・エンジニアリングの融合 日常的に柔軟な対応力（レジリエンス）を付加・融合したマネジメントシステムを調査・検討した。 ・Hollnagel先生が提案する、レジリエンス分析評価グリッド（Resilience Analysis Grid: RAG）の考え方により、現状の組織の分析評価を試行した。RAGは、レジリエンスを構成する4つの主要な能力（対応能力、監視能力、学習能力、予測能力）に焦点を当て、今ある脅威、さらには想定外の脅威に対しての組織のレジリエンス能力を評価するアプローチである。		<b>研究幹事会</b> 平成24年9月26日 平成24年11月9日 平成25年3月6日 平成25年4月18日 平成25年5月11日 平成25年5月29日
5	QASG ニュースの発行		(1) 第76号 平成24年9月 (2) 第77号 平成25年2月 (3) 第78号 平成25年5月		①第22回通常総会報告 ②第1・2グループ活動計画 および活動報告 ③平成24年度役員紹介 ④第40回講演会報告、他
6	幹事会		上記諸活動の計画・推進または支援のため、必要な都度、幹事会を開催した。 (幹事会：第145回～第151回の計7回開催)		